



「うらほろスタイル」から学ぶ「地域に根ざした教師」像

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学釧路校 公開日: 2015-06-25 キーワード: 作成者: 宮前, 耕史, 渡邊, 希美, 上山, 紗耶 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00008480

「うらほろスタイル」から学ぶ「地域に根ざした教師」像

宮前 耕史・渡邊 希美・上山 紗耶

北海道教育大学釧路校/地域教育開発専攻/地域教育分野

The Image of “Community-Based Teachers”, Learning from “Urahoro Style Community-Creation Plan”

Yasufumi MIYAMAE, Nozomi WATANABE, Saya UEYAMA

Department of Community Education, Kushiro Campus, Hokkaido University of Education

北海道教育大学釧路校/地域教育開発専攻/地域教育分野では、「うらほろスタイル推進地域協議会」（北海道十勝郡浦幌町）と連携し、体験学習の機会を数多く設けることにより、これからの地域社会、とりわけ農山漁村における学校と地域の関係のあり方や、教師・学校の役割を問い直していく新たな地域に根ざした教師像—「地域創造型」教師養成に向けた授業改善に取り組んでいる。平成25年度は、分野所属学生が「うらほろスタイル」を「学校の中」から学ぶ、浦幌小学校での教育実習が初めて実施された記念すべき年となった。昨年度に引き続き、今年度も浦幌町で開催された「うらほろフォーラム2014」に授業の一環として参加し、浦幌小学校で教育実習を行った学生2名が学びの成果を発表する機会を得た。本稿は、当日の口頭発表を文字化したものである。

はじめに

宮前耕史

「うらほろスタイル」（正式名称「うらほろスタイルふるさとづくり計画」）とは、北海道十勝郡浦幌町において地域社会の持続可能性の実現を目指して文字通り「町ぐるみ」で推進される教師・学校から始まる地域づくり・地域教育計画の総称で、町内に5つある小・中学校とその教員を中心に、保護者・町・町教委、農協・漁協・森林組合・商工会等の各種団体、町内有志らにより「うらほろスタイル推進地域協議会」を組織して、これを推進主体として「地域への愛着を育む事業」（うらほろふるさと教育推進会議）、「子どもの思い実現事業」（子どもの思い実現ワークショップ）、「農村つながり体験事業」（うらほろ食のプロジェクト）といった事業を展開するものである。

北海道教育大学釧路校/地域教育開発専攻/地域教育分野では、分野所属教員5名（北澤一利・平岡亮・諫山邦子・宮前耕史・添田祥史）全員の協同により、「うらほろスタイル推進地域協議会」と連携し、体験学習の機会を数多く設けて地域教育に関する理論と実践とを学生自身が統合することにより、これからの地域社会、とりわけ農山漁村における学校と地域の関係のあり方や、教師・学校の役割を問い直していく「地域創造型」教師養成に向けた授業改善に取り組んでいる〔宮前・添田2012〕〔添田・近江・中村・宮前・高木・今泉2013〕〔宮前2013〕〔宮前・小林・栗本2013〕。

取り組みの全体像については本稿渡邊報告中にある【図2-2】や上記報告・論文等をご参照いただくとして、平成25年度（2013）は、分野所属学生が「うらほろスタイル」の取り組みを「学校の中」から学ぶ、すなわち「うらほろスタイル」に見る新たな「地域に根ざした教師像」—「地域創造型教師」のあり方や実践を「学校の中」に身を置き実地に学ぶ、浦幌小学校での教育実習を初めて実施させていただいた記念すべき年となった。

今年度（平成25年度（2013））も昨年度と同様、浦幌町で開催された「うらほろフォーラム2014」に授業の一環として参加したが〔宮前・小林・栗本2013〕、今年度の場合にあっては、浦幌小学校で教育実習を行った学生2名がその学びの成果を発表させていただく機会を得た。本稿は、これを文字化したものである。また、その他の学生も、一年間を通じた「うらほろスタイル」からの学びについて、所属研究室ごとにAゼロ版模造紙に図式化して示したものを作成し、「フォーラム」会場に掲示した。

浦幌町で学ぶ

渡邊希美

はじめに

北海道教育大学釧路校地域教育開発専攻地域教育分野3年の渡邊希美と上山さやです。私たちは2年生の4月からこれまで2年間に渡り、「うらほろスタイル」で行われている様々な取り組みに実際に参加、体験させていただきな



【図2-1】浦幌で学ぶ

がら、これからの地域社会、とりわけ農山漁村等の地方地域社会で「地域に根ざした教師」としてあるとはどのようなことなのか、そこで私たちにはどのような資質や能力、努力が必要とされるのか、といったことを考えてきました。

そして今年、私たち2名は浦幌小学校で教育実習をさせていただき、「うらほろスタイル」が学校の中で、実際にどのように取り組まれているのか、勉強させていただきました。今日は、これまでの2年間のわたしたちの学びも振り返りながら、私たち教育実習生が、浦幌小学校での教育実習を通じて学んだこと、考えたことについてお話させていただきます。

まずわたし、渡邊の方から「うらほろスタイル」から学ばせていただけてきた、私たちの取り組みの全体像についてお話させていただきます。その上で、渡邊と上山、それぞれから、浦幌小学校での教育実習を通じて学ばせていただいたこと、考えたことについて発表させていただきます（【図2-1】）。

1. 私が体験してきた取り組み

この図は、(実習も含めて) 私たちの2年間にわたる「うらほろスタイル」から学ぶ取り組みを図にまとめてみたものです（【図2-2】）。2年生の1学期には、取り組みの中心は民泊体験です。浦幌の子どもたちが体験する民泊体験を私たちもそのまま体験することで、浦幌の子どもたちにとって民泊体験がもつ意義や効果について考えます。ここでは、まずは子どもの立場から「うらほろスタイル」を体験し、知ることを目指します。

2年生の2学期の取り組みの中心は、中学校の「町活性化企画案発表会」の見学です。うらほろふるさと教育推進会議の座長でもある浦幌小学校の中村校長先生や、取り組みの中心となっている先生を大学にお招きし、お話しも伺いながら、自分たちの体験と教育の理論とを結びつけ、将来どんな教師になりたいか、考えていきます。

3年生の1学期には、「子どもの思い実現ワークショップ」へ参加させていただいたり、お手伝いとして関わらせ

		前期(4~7月)	後期(10~12月)
2年	浦幌・「うらほろスタイル」を知る ・子供の立場から「うらほろスタイル」を体験 ・民泊体験/バスツアー(5~6月)	通 楽 へ 学 合 宿	理論と実践の統合 ・「地域教育」に関する理論学習 ・上浦幌・浦幌中学校「町活性化企画案発表会」見学
3年	大人として「うらほろスタイル」に参加 ・「子どもの思い実現プロジェクト」等への参加、お手伝い		教師として学校の中から「うらほろスタイル」に参加・体験 ・教育実習(浦幌小学校) ・授業づくり(学習会・講演会)
4年	採用試験		卒業論文

【図2-2】「うらほろスタイル」から学ぶ地域教育開発専攻地域教育分野の取り組み全体像

ていただいたりしています。何年前かに、中学生から提案された「町活性化企画案」に『浦幌新聞』というものがあったそうです。去年の夏からこれを私たち教育大の学生が編集・執筆させていただけることになり、現在、第4号まで発行されています。私たち浦幌小学校の実習生も、実習期間中、実習を通じて感じたこと、考えたこと等を書かせていただきました。ここでは、地域のおとなの立場から「うらほろスタイル」に関わらせていただいています。

こうして子どもの立場、地域のおとなの立場から「うらほろスタイル」の取り組みに参加、体験させていただいた上で、教育実習ではいよいよ教師としての立場、学校の中から「うらほろスタイル」に関わらせていただくこととなります。

2. 取り組みを通じて感じたこと、考えたこと

このような取り組みの中で、私が特に学ばせていただいた取り組みとして、2年生の時の民泊体験と、3年生の1学期にお手伝いさせていただいた「通楽(学)合宿」についてお話ししたいと思います。

(1) 民泊体験

これは取り組みの一つである民泊体験に参加した時の様子です（【図2-3】）。私は肉牛農家の谷田さんのお宅にお世話になりました。大分県の出身である私にとって牛を間近で見ることさえも新鮮な上、さらに、そこでの2日間の生活は驚きの連続でした。

左上の写真は牛に油を塗っている様子です。この牛は皮膚病にかかっており、毛が生えていない箇所がありました。皮膚に白い斑点のようなものがいくつかみられます。このような牛は他にもあと2頭いました。こうした牛には油を塗ることで空気中のばい菌から守ることができたり、皮膚の乾燥を防ぐことでかゆみを抑えたりすることができると谷田さんから教えていただきました。

中段の写真は子牛にミルクをあげている様子です。子牛



【図2-3】浦幌民泊体験

は餌を食べることができず、ミルクしか口にできないので、ミルクはとても重要なものとなります。朝6時、昼12時、夕方6時ときっちり決まった時間にあげます。ミルクはお腹を壊さないようにぬるめの温度に調整されているそうです。

左下の写真は、市場に卸す前の牛の毛並みを整えている様子です。少しでもよく見えるように毛並みを整えてきれいにします。しっぽにフンがついているのを落とさないと市場に出たときに良い印象を受けないそうです。牛が痛がらない程度に強く、優しく、そして丁寧さが求められる仕事内容でした。

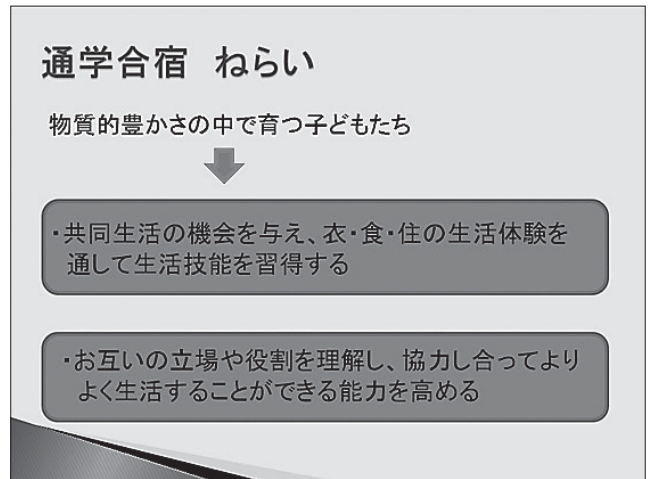
私はこの民泊体験で、一次産業の生活スタイル、いのちとたべものつながり、そして何よりも浦幌町のみなさんとの触れ合いを通じて地域間での多彩なコミュニケーションの大切さを学びました。この民泊体験は浦幌の子ども達にとってもきっと成長の糧になると思います。

(2) 通楽(学)合宿

通楽(学)合宿は6月に行われました。通楽(学)合宿のねらいは、物質的な豊かさの中で、親に依存して暮らす子どもたちに共同生活の機会を与え、自らの手による衣・食・住の生活体験を通して生活技能を習得するとともに、お互いの立場や役割を理解し、協力し合ってよりよく生活することができる能力を高めようとするところにあります(【図2-4】)。

通楽(学)合宿は子ども約20人、大学生8人で行われました。この二つの写真は子ども達が学校から帰ってきて宿題をしている様子です(【図2-5】)。わからないところは大学生に教えてもらいながら進めていきました。学校から帰ってすぐ、決まった時間に学習をするということも規則正しい生活の一貫です。

次の写真は調理の様子です。子どもたちは献立から自分たちで考え、材料も自分たちでスーパーに行って調達してきました。いつもはお母さんやお父さんが何気なくしていることが自分たちの手で行うとどれほどの手間がかかるも



【図2-4】通学合宿のねらい



【図2-5】浦幌通楽(学)合宿

のなのか、大変さを感じながら調理に励んでいました。共同生活を送ることを通して子ども達と共に生活する技能を高め、家庭や家族の大切さに気づくことができました。

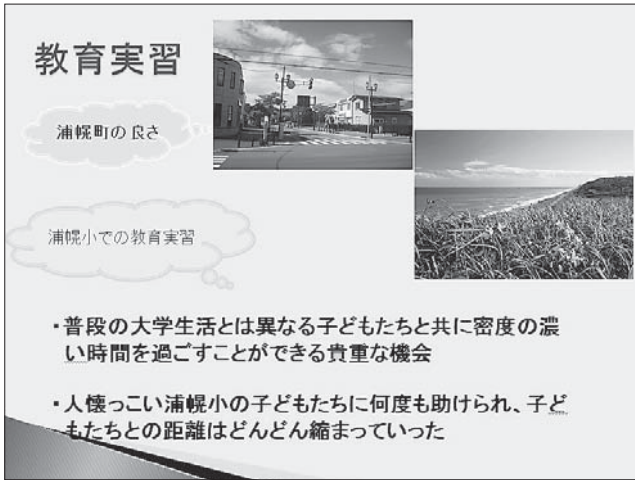
3. 浦幌小学校での教育実習から学んだこと

(1) 浦幌小学校での教育実習

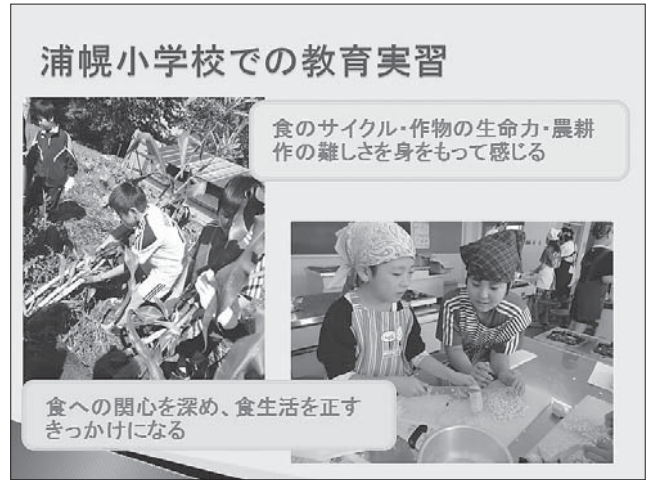
そしていよいよ教育実習です。私は実習先として浦幌小学校を希望し、5週間浦幌町に住みながら教育実習に励みました。浦幌小学校を希望した理由として、町のみなさんが地域おこしのため、懸命にアイデアを出し、動いている光景に魅力を感じたとともに、どこか私の地元に似た雰囲気を持つ浦幌町に興味を抱いたからです。慣れない土地での生活は多くの戸惑いがありましたが、5週間住んだからこそわかる浦幌の良さも感じることができました。

教育実習は普段の大学生活とは全く違う子ども達と共に密度の濃い時間を過ごすことができる貴重な機会となりました。人懐っこい浦幌小の子ども達に何度も助けられ、子ども達との距離はどんどん縮まっていきました(【図2-6】)。

浦幌小の行事には自然と関わる授業・地域と関わる授業



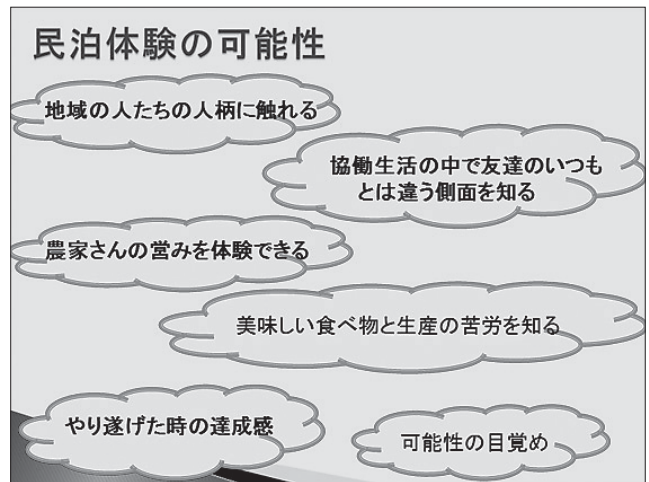
【図2-6】浦幌小学校での教育実習



【図2-7】浦幌小学校での教育実習②



【図2-8】5年生の「民泊体験」



【図2-9】民泊体験の可能性

がとても多く、私自身も子どもたちと同じような新鮮な気持ちで活動しました。左の写真は5年生の教材園で育てていたとうきびの収穫の時の様子です（【図2-7】）。ほとんどのとうきびが動物と気候の悪さにやられてしまい、残念な結果になりましたが、自分たちの手で実際に育てることにより、食のサイクル・作物の生命力・農耕作の難しさを身をもって感じたことと思います。

そして、右の写真がその収穫したとうきびを使ってコンスープを作っている時の様子です。添加物が全く入っていないため、子どもたちはいつもと違う味に戸惑いながらも、素材本来の美味しさを味わうことで子どもたちは「食」への関心を深め、食生活を正すきっかけにもなったと思います。自分たちで育てて、食べるまでの過程を体験できる授業でした。

（2）小学校5年生の「民泊体験」

民泊体験は私が浦幌小学校を希望した理由の一つです。子ども達にとって、民泊は非日常であり、見るもの、聞くこと全てが初めてです。最初は何をするのかも、どんな人のお宅におじゃまするのかも、すべてが初めてのことで不

安な顔をする子ども達がほとんどでした。

しかし、実際に様子を見に行ってみるとそんなことは忘れていたようでした。いつもは騒がしく少し生意気な子が正座をせずと我慢していたり、授業中は大人しくシャイな子が率先して仕事を手伝ったりしている様子を見て子供たちの新しい顔に驚きました。牛に餌をあげたり、ショベルカーに乗せてもらったり、草を刈ったり、収穫した野菜で料理をしたり、すべての活動で子どもたちは笑顔に溢れていました（【図2-8】）。

浦幌町のみなさんの人柄に触れ、共同生活の中に友達の違う側面を知ることができます。好奇心をくすぐる農家さんの営みや、美味しい食べ物と生産の苦勞、そして、やり遂げた時の達成感。民泊体験は子ども達に眠っている可能性を目覚めさせてくれるのだと思います（【図2-9】）。

おわりに一私の目指す教師像

最後に私の目指す教師像についてお話しさせていただきます（【図2-10】）。

学校教育は、子どもと保護者、教師の信頼関係によって築かれます。教師としての誇りと責任を自覚し、常に向上

目指す教師像
 ～子ども・保護者・地域の期待に応える～

学校教育は、子どもと保護者、教師の信頼関係によって築かれる。教師としての誇りと責任を自覚し、常に向上心を持ち、保護者や地域の信頼に応えられるような教師でありたい。

具体的に...

- ① 豊かな人間性を備えた信頼される教師
- ② 教育に対する信念と情熱を持ち、実践する教師
- ③ 生徒一人一人の特性を認め合い、教育目標の具現化に積極的に取り組む教師
- ④ 保護者や地域とのかかわりを大切にし、協力を惜しまない教師

【図2-10】私の目指す教師像

浦幌小学校での教育実習から学んだこと

北海道教育大学釧路校
 地域教育開発専攻3年
 上山紗耶

【図3-1】浦幌小学校での教育実習から学んだこと

心を持ち、保護者や地域の信頼に応えられるような教師でありたいと思います。具体的には、豊かな人間性を備えた信頼される教師、教育に対する信念と情熱を持ち、実践する教師生徒一人一人の特性を認め、教育目標の具現化に積極的に取り組む教師、そして保護者や地域とのかかわりを大切にし、協力を惜しまない教師です。

今後の学校には開かれた学校づくりが求められると思います。保護者や地域の人々と連携し子どもを育てていくことが重要であり、学校教育に参加してもらうことが必要になってくると思います。しかし、学校と地域の間に信頼関係がなければ参加したくないのが普通です。私は、普段から地域の行事に参加し信頼関係を築き上げ、地域の方々と頻繁に情報交換を行い、連携を密にしたいと思います。このようなことを行うためには教師自身の姿勢が大切です。

子どもたち共に自らも学び続けることこそ信頼を得る第一歩だと私は考えます。常に子供達と正面を向き合い、地域の人々から求められていることは何なのかを考え、地域に根ざした教師を目指したいと思います。

浦幌小学校での教育実習から学んだこと

上山紗耶

はじめに

こんにちは。北海道教育大学釧路校地域教育開発専攻3年目の上山です。浦幌スタイルをモデルとした大学の授業での取り組みと、浦幌小学校での教育実習から学び考えたことについて発表させていただきます（【図3-1】）。

1. 大学での学び

私は大学2年生から今までの2年間にわたり浦幌スタイルをモデルに地域教育について学ばせていただきました（【図3-2】）。民泊体験では、十勝浦幌高橋農園の高橋さんにお世話になりました。高橋さんのお宅ではラズベリーの栽培をして更にそのラズベリーを使ったクッキー、ジャムなどの加工品まで作っています。私はクッキーづく

大学での学び

民泊体験
 ・浦幌町内の高橋農園さん
 ・ラズベリークッキー作り体験
 ⇒1回に作るクッキーの量が多い、衛生面の管理

子どもの思い実現プロジェクト ワークショップ
 ・浦幌町の子どもたちが町の活性化のために考えたアイデアを現実化するために大人が話し合う
 ⇒子どもを町全体で育てているように感じた。

浦幌小学校 中村校長先生 笹川先生のお話
 ・時間をかけて地域のことを知っても、転動でリセットされてしまう。
 ⇒地域に合わせた教育を行うことの大変さ

【図3-2】大学での学び

りを体験させていただきました。商品になるものであるため、今までに自分で作ったクッキーよりも材料が多いことに驚きました。また衛生面はかなり徹底されていました。1泊2日という短い期間ではありましたが、初めての農家さんのお宅での生活体験は忘れられない経験になりました。

また、子どもの思い実現プロジェクトのワークショップにも参加させていただきました。これは浦幌町の子どもたちが浦幌の活性化のために一生懸命考えたアイデアを大人たちが実現させるための話し合いです。いろいろな立場の地域の方々が子供から出たアイデアを実現できるように肉付けしたり、削ったりしていました。子供のアイデアの実現のために本気で取り組む大人の姿を見て浦幌町は町全体で子供を育てようとしているのだという印象を受けました。

浦幌小学校の中村校長先生と笹川先生のお話をお伺いしました。教師は数年で必ず他の学校へ転動しなければなりません。その中で、その地域に合わせた学習を行うことの大変さを知りました。

大学でこれらの体験をさせていただくうちに、浦幌スタ



【図3-3】浦幌小学校での教育実習

浦幌小学校の地域への愛着を育む取り組み
(2013年度8～9月)

学年	内容	教科
1、2年生	・自然と触れ合おう (留真温泉奥の川遊び)	生活科
3、4年生	・子ども農業体験	総合的な学習
5、6年生	・鮭のさばき方教室(5年生) ・民泊体験(5年生) ・浦幌のよさを伝える(6年生)	総合的な学習

【図3-4】浦幌小学校の地域への愛着を育む取り組み

イルを学校の外からだけでなく、学校の中で先生方がどのように進めているのか、学校の中から見たいと思うようになりました。そこで浦幌小学校で教育実習をさせていただきたいと思いを希望しました。

2. 浦幌小学校での教育実習

浦幌小学校で実習をさせていただいた期間は2013年8月20日から9月20日までの5週間です。配属学級は3年1組28名で、子どもたちはみんな元気いっぱいの素直な子どもたちでした（【図3-3】）。5週間の実習期間中に行われていた地域への愛着を育む教育は1、2年生「自然と触れ合おう」3、4年生「子ども農業体験」5、6年生「鮭のさばき方教室」「民泊体験」「浦幌のよさを伝える」です（【図3-4】）。

私は3年生で実習をさせて頂いていたので3、4年合同の子供農業体験について詳しくお話してみたいと思います（【図3-5】）。子ども農業体験とは、学校の畑ではなくJA青年部さんの広い畑をお借りしてジャガイモを生産体験するというものです。この子ども農業体験は6月から9月までの3ヶ月間行われます。子供が自分の手でジャガイモを植え、育て、収穫します。収穫後のジャガイモはお母さんが家庭科室で蒸かして給食の時間に出してくれました。自分たちで植え、育てたことで、地域への愛着を育むことに加え、食べ物に対して感謝の気持ちを持つことができるのではないかと思います。

ジャガイモ収穫の当日は日差しが強くとても暑い日でした。しかし、ジャガイモを収穫している時の子どもたちは生き生きとして楽しんでいました（【図3-6】）。

3. 教育実習で学んだ教師の姿

このように子どもたちが楽しみながら自分の地域についての愛着をもつ為に教師ができることはなにか、浦幌小学校での実習を通して考えてみました（【図3-7】）。

1つ目は教師がその地域に住むことです。教師にもそれぞれ事情はありますが、可能であるならばその地域に住ん

3、4年生「子ども農業体験」

JA青年部さんの畑を借りてじゃがいもの生産をします

子ども自身が
植える 育てる 収穫

↓

実食

お母さん方が、ジャガイモを蒸かしてくれました。

自分たちで植え、育てたことで、食べ物に対して感謝の気持ちを持つことができるのではないかと思います。

【図3-5】3・4年生の子ども農業体験

だほうが地域理解に繋がりより良い教育ができるようになると思いました。また、地域・保護者のみなさんとの信頼関係も築きやすくなるのではないかと思います。実際に私も教育実習中に浦幌町に住んだことで、校長先生、教頭先生、漁師さんのはからいで、秋サケ漁の体験とサケのさばき方を教えていただきました。

2つ目は「様々な教科に組み込む力」です。総合的な学習、生活科、など単体で取り組むだけではなく、理科、社会、算数など各教科に組み込むことで子どもたちが自分の町について知り、愛着を持つことにつながると思います。

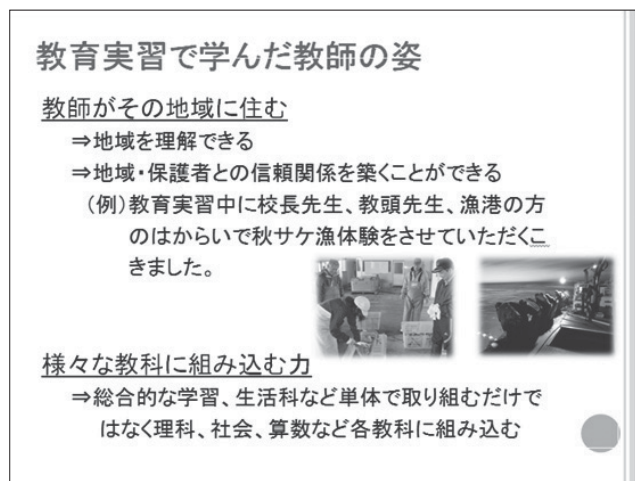
おわりに一私の目指す教師像

教育実習を通して学んだことから私は、自分の目指す教師像について考えました（【図3-8】）。

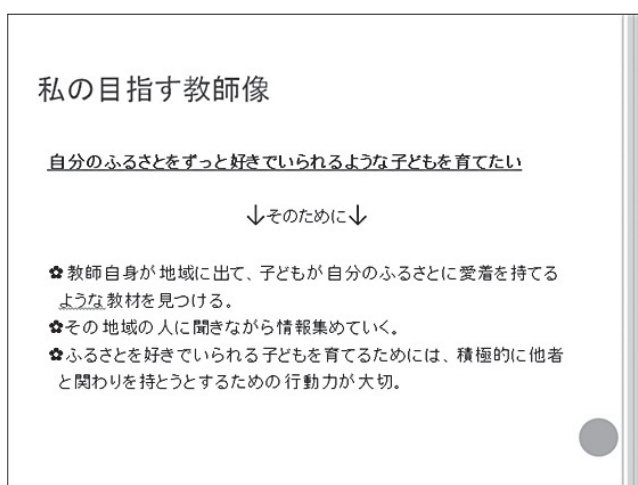
私は自分のふるさとをずっと好きでいられるような子どもを育てられたらいいなと思います。そのためにも、私は地域に出て子どもが自分のふるさとに愛着を持てるような教材を見つけることが大切だと思いました。しかし、転勤の多い教師にとって地域の情報を集めることは大変なことです。そこで、自分ひとりで図書館や博物館から地域の情



【図3-6】子ども農業体験「収穫」の様子



【図3-7】教育実習で学んだ教師の姿



【図3-8】私の目指す教師像

報を集めるのではなく、その地域の人に教えていただきながら集めていこうと思います。その地域に住んでいるの方がより詳しく知っているからです。

ふるさとを好きでいられる子どもを育てるためには、積極的に他者と関わりを持つとするための行動力が大切になるのではないかと思います。私が教育実習期間に秋サケ漁体験ができたのは校長先生、教頭先生、漁師のみなさんとの間に信頼関係があったからだと思います。浦幌小学校の先生方のように行動力があり積極的に地域の方々、家庭とかかわっていけるような教師になりたいと思いました。

最後になりますが、浦幌小学校の中村校長先生をはじめとする先生方や地域の方々には大変お世話になりました。本当にありがとうございました。以上で発表を終わらせていただきます。御静聴ありがとうございました。

【参考文献】

- ・添田祥史・近江正隆・中村吉昭・宮前耕史・高木秀人・今泉博2013「地域教育のこれからと教師・学校の役割」北海道教育大学釧路校ESD推進センター『ESD・環境教

育研究』第15巻第1号、pp.1-33

- ・宮前耕史2013『『うらほろスタイルふるさとづくり計画』の成り立ちとその現代的意義—『地域に根ざした学校』論・『地域に根ざした教育』論の立場から』北海道教育大学学校・地域教育研究支援センターへき地教育研究支援部門『へき地教育研究』第67号、pp.31-54
- ・宮前耕史・小林可奈・栗本由佳2013『『うらほろスタイル』から学ぶ地域教育開発専攻・地域教育分野の『地域創造型教師』養成の取り組み』北海道教育大学釧路校研究紀要『釧路論集』第45号、pp.1-8
- ・宮前耕史・添田祥史2012「地域に根ざした教師養成のためのプログラム開発—『地域参加型マインド』から『地域創造型マインド』へ—」北海道教育大学釧路校研究紀要『釧路論集』第44号、pp.19-26